

4-1 看護師に対する患者及び看護婦の意識調査

南1病棟 ○久松忠男 佐藤

はじめに

看護職は、女性の職業の代表的分野の一つであるが、近年男性の数も徐々に増加している。昭和58年の日本全国の看護師数は969名であり、看護界の0.43%にあたる。そして従来は精神科領域にその職場が限られていたものが、手術室、透析室等において医療電子機器を使用する分野に拡大され、又一般病棟において徐々にではあるが勤務するようになっている。当院でも本年4月より一般病棟として初めて整形外科病棟に1名配属され、実務について6ヶ月経過した。排泄介助も含む患者への直接ケアの多い一般病棟で、看護師が患者及び看護婦からどのように受けとめられたかを知り、今後の業務遂行上の参考とするためにアンケート調査を行ったのでその結果を発表する。

研究方法

対象は、昭和59年10月現在整形外科病棟に入院している患者51名と、昭和59年5月～10月迄に退院した患者49名と、及び一緒に勤務している看護婦20名であり、調査方法は、アンケート用紙調査である。

I 患者へのアンケート結果

アンケートの回収率は76%である。

A 対象者の背景

- ① 年齢は、16～60才が43名57%で最も多く、次いで61才以上が27名35%、1～15才は6名8%であった。

—表I参照—

- ② 性別は、男性47名62%、女性29名38%であった。

—表I参照—

- ③ 入院期間は、2～3ヶ月で31名41%、4～6ヶ月で24名32%、1ヶ月以内で17名22%、6ヶ月以上で5名6%であった。—表II参照—

- ④ 疾患は大きく三つに分けて、外傷で31名41%、背椎で24名32%、関節で21名27%であった。

—表III参照—

- ⑤ 手術施行者は70名92%である。—表IV参照—

〔表I 年齢及び性別〕

	性	10	20	30	名	%
1～15	男	3名			3名	4%
	女	3名			3名	4%
16～60	男			31名	31名	40%
	女		12名		12名	17%
61才以上	男		13名		13名	17%
	女		14名		14名	18%

〔表II〕入院期間

1ヶ月以内	2～3ヶ月	4～5ヶ月	6ヶ月以上
17名 22%	31名 41%	24名 32%	6名 8%

〔表III〕疾患別

外傷	背椎	関節
31名 41%	24名 32%	21名 27%

〔表IV〕手術率

手術した	未手術
70名 92%	7名 8%

B 看護師に対する意識について

- 1 あなたは今迄に看護師がいることを知っていましたか。

① 知っていた。 33名 43%

② 知らなかった。 43名 57%

※知っていた人は、どうして知りましたか

③ 他の病院や診療所 7名 21%

④ 新聞や雑誌 14名 42%

⑤ テレビ 8名 24%

⑥ その他 4名 13%

- 2 入院して最初に会った時どのように感じましたか。

① 男性に看護されるのにとまどいを感じた。

♂ 4名 5%

理由 看護師を知らなかった

♀ 8名 10%

理由 なんとなく 排泄時不安

② 男性がいるので安心した。

♂ 18名 24%

理由 同性だから恥かしくない、力強い

♀ 3名 4%

理由 力強い

③ 特に何も思わなかった

♂ 24名 32%

♀ 16名 21%

④ その他

♂ 3名 4%

- 3 入院生活を送って看護師に看護されるのをどう思いましたか。

① 看護婦と同じと思った。

♂ 20名 43%

♀ 17名 59%

㉔看護婦と違うと思った。

♂ 26名 55%

♀ 11名 38%

㉕不明

♂ 1名 2%

♀ 1名 2%

※看護婦と違うと思った理由は

㉖移動

♂ 7名 15%

理由 力がある、同性だから

♀ 2名 4%

理由 力がある

㉗保清

♂ 2名 4%

理由 力が強く気持ちよい、同性だから恥かしくない

♀ 2名 4%

理由 異性だから恥かしい

㉘排泄

♂ 4名 8%

理由 同性だから恥かしくない

♀ 4名 8%

理由 異性だから恥かしい、便器挿入時力があって楽

㉙食事介助

♂ 1名 2%

理由 同性だから恥かしくない

㊀コミュニケーション

♂ 5名 9%

理由 同性だと話しやすいことが多い、やさしい

♀ 2名 4%

理由 楽しい、やさしい

㊁その他

♂ 1名 2%

理由 反発したくなる

㊂解答なし

♀ 1名 2%

4 女性患者のみ答えて下さい

医療従事者には、他に医師、レントゲン技師等いますが、男の医師やレントゲン技師に診察、撮影される時と看護士に看護されるのとは、どう心理的に違いますか。

㊃同じ

21名 73%

㊄違う

7名 23%

理由 知名度が低い、看護士は排泄介助するの
で恥かしい

㊅その他

2名 4%

5 看護士が病棟にいた方がよいと思いますか。

①いたほうがよい

70名 92%

②いないほうがよい

0名

③どちらでもよい

6名 8%

6 その他の意見

対話を怠らないでほしい、堂々と看護すべき、
男の特性をもっと生かす、力が強すぎる

II 看護婦へのアンケート結果

1 看護士が病棟に配属されると決定したとき、あなた
はどう思いましたか。

㊆不安に思った

4名

㊇刺激となりよいと思う

3名

㊈何も思わない

2名

㊉その他

2名

2.一緒に働いて看護する面で、どう思いましたか。

㊆看護婦と同じと思った

4名

㊇看護婦と違うと思った

7名

※違うと思う理由どうしてですか

㉖移動

4名

理由 男のほうが力が強い

㉗保清

5名

理由 男性だから女性心理が、わからず不安
女性患者は、恥かしい
男性患者は、同性だから看護婦より恥か
しくない

㉘排泄

5名

理由 女性患者は、拒否しやすい

男性患者は、同性だから恥かしくない

㊥ コミュニケーション

4名

理由 看護婦より看護師のほうが話しやすい
特に男性患者は

3.一緒に夜勤をしてどう思いましたか。

㊤ 男性だと気をつかう

3名

㊦ 安心していられる

3名

㊧ 男性の導尿等してもらえるので助かる面も多い

3名

㊨ その他

3名

理由 まだ一緒に夜勤をしていない

㊩ 男性だと女性のケアができないので負担に思う

0名

4 一般病棟で看護師は通用すると思いますか。

㊤ 通用する

9名

㊦ 通用しない

0名

㊧ 条件付きで

1名

理由 外科系は処置が多いので

㊨ 不明

1名

理由 まだケースの段階であるので

5 看護師が一般病棟で勤務していくうえで、どのような点に注意していったほうがよいですか。

- ・若い女性の排泄等は看護婦にまかせて業務分担するようにする
- ・女性羞恥心に対しての配慮
- ・言葉使い、患者にはやさしく、男性口調に注意
- ・女性言葉をしない

まとめ

看護師という職業を、患者の33名43%は知っており看護界に占める看護師比率の低さの割には知られていたが、しかし今迄に直接に接したことがある、見たことがある人は7名であり他の22名66%は、マスコミを通じてである。それには某精神病院における看護上の暴力行為等の報道も含まれており、あまりよい印象で知られているとはいえないものかも知れない。入院して患者が看護師に接してからの印象は、入院時女性はとまどうが、男性では安心する人の数の比率が高い、多くの患者は病院の生

活に慣れると同じように看護師も受けとめており、看護する人が、男か女かの問題より、患者自身これからの入院生活、治療全体のことが問題なのではないかと思われる、患者のほとんどは手術をしており実際のケアの場面では、男は力が強いという期待から移動の場面で肯定的評価が多く、男性患者の場合、コミュニケーション、排泄等すべての場面で男性同志で安心するという評価がある。女性患者は、排泄を必須にすべての場面をとまどいがあるが、女性患者同志で「男の人でも恥かしくないよ」「看護婦さんでも、看護士さんでも同じ」とかの声も聞かれて患者の協力も多いに得られたが、若い女性はやはり恥かしいという心理のためか拒否されることも多い。具体的に評価した人は5名であり答えない人が多くあった。他の医療従事者と比較して女性の受けとめ方は21名70%の人は同じと受けとめ、7名23%の人は違うと答えていて、違う理由はやはり排泄介助があるためである。

総合してみても、一般病棟に看護師がいたほうがよいと答えた人が、患者92%であり又看護婦の調査結果も同様であり一般病棟において看護師と一緒に働くことのなかった人ばかりで最初は患者同様とまどう人が多く、やはり問題は女性患者の排泄、保清等であったが看護婦からも看護師が一般病棟において通用すると答えた人が9名86%である。現在看護師が1名しか配属されていない現状下でのアンケート調査では、個人攻撃となることを恐れて、「答えづらい」という声もあり正確な評価が得られない面もあったのではないかと思うが、一般病棟でも看護師が働いてゆけるという結果が得られた。

おわりに

患者は、すべてのプライバシーをさらけ出し、羞恥心をのりこえて入院生活を送っている。男性の患者からは同性ということで心が知れ安心するという評価、女性の患者からは異性という羞恥心より拒否されがちであるが、プライバシーを傷つけぬような配慮により女性も拒否することは少なくなってきている現状である。又近年は、男性職場への女性進出、女性職場への男性進出も多く、社会的に男性、女性の固定観念は徐々に変化しつつあり、その中において看護の場面でも男性、女性の互いの特性を生かして行くことも多くのメリットがあるのではないかと思う。今後の看護としては、男性の導尿、剃毛等は看護師、女性の導尿、剃毛は看護婦として役割分担して行くことにより、看護しやすい場面も多いと思われる。まだ看護師は全体の人数も少なく、今回のアンケートも一般病棟に勤務6ヶ月のものであり今後ともさまざまな問題がでてくるかもしれないが、患者及び、看護婦の意見を参考にし看護方法を検討し、よりよい看護ができるよう頑張っ